Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2025-06-21

<雑録>西洋新著論文梗概 : アッシュレー『物價ノ騰貴』(1)

坂西, 由藏

(Citation)
經濟學商業學國民經濟雜誌,11(2):283-293

(Issue Date)
1911-08

(Resource Type)
departmental bulletin paper

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051761

西洋新著論文梗概

商學士　坂西由藏

本欄ハ西洋ニ於ケル最近ノ著書及ビ論文ヲ讀ムニ隨ヒ時々其ノ梗概ヲ紹介センガ爲メニ設ク

アッシュレー『物價ノ騰貴』（其一）

—The Evening News 3rd-7th, 10th-12th Oct, 1910 所載ノ論文ヲ Louis Katzenstein 之ヲ獨譯シテ Schmollers Jahrb. XXXV. (1911) 2. Heft, S. 1-29 ニ掲載セルモノ。括弧中ノ數字ハ原文出版後論者自ラ增補セルモノナリ

第一節　物價騰貴ノ事實

（一）近時生活費ノ著シキ騰貴ハ世界各地ニ共通ノ現象デアル。茲ニ先ヅ其ノ實際ノ狀態ヲ詳カニシ、次ニ是ガ原因ヲ究メ、最後ニ之ヨリ生ズル結論ヲ與ヘテ見ヤウト思フ。

先ヅ食料品中一日モ缺ク可カラザル「パン」ニ就テ見ルニ、最近二年間其ノ價ガ著シク騰貴シタコトハ一般ニ知ラレタル事實デアル。シカモ其ノ品質ト地方的事情ト種々ノ差異ガアルカラシテ其騰貴ノ現象ヲ簡單ナル統計ニ依テ現ハスコトハ容易デナイ。故ニ商務局(Board of Trade)ノ公ニシタ統計ニヨリテ其一般ヲ示スヲ以テ滿足シナケレバナラヌ。但シ其ノ數字ハ全國各地ニ散在スル消費組合ニ於ケル四封度「パン」ノ價ニ基クモノデアル。卽チ左ニ英國全體ニ於ケル平均ノ價ノ外、特ニロンドンニ於ケル平均ノ價ヲ擧ゲ、併セテ英國ニ於ケル小麥一「クオーター」ノ平均價ヲ掲ゲヤウ。

（第一表）

年次	四封度「パン」ノ價 英國	四封度「パン」ノ價 倫敦	小麥一「クオーター」ノ價
一九〇〇	四片 九九	五片 二三	二六志 一一片
一九〇一	五・一二	五・一七	二六　九
一九〇二	五・〇九	五・二〇	二八　一
一九〇三	五・一八	五・二七	二六　九
一九〇四	五・三九	五・五〇	二八　四

一九〇五	五・四五	五・五三	二九	八
一九〇六	五・二七	五・三〇	二八	三
一九〇七	五・四八	五・三六	三〇	七
一九〇八	五・八一	五・八一	三二	〇
一九〇九	三月一日…五・八八	五・八四	三箇月平均	一
同	六月一日…六・三八	六・四四	四四	一
同	九月一日…六・四三	六・四四	四〇	三
同	十二月一日…六・一八	五・九四	三二	五
一九一〇	三月一日…六・一四	五・九四	三三	一
同	六月一日…六・〇一	五・九四	三一	八
同	九月一日…五・九一	五・八八	三一	一〇
同	十二月一日…五・八七	五・六九	三〇	三〇

此表ニ據テ「パン」ノ價ノ騰貴ノ傾向ハ既ニ一九〇二年又ハ一九〇三年ニ始マツテ居ルコト竝ニ小麥ノ價ガ一九〇四年以來「パン」ノ價ト殆ンド並行シテ騰貴シタコトガ分ル。此ノ兩者ノ關係ハ頗ル複雜デハアルガ「パン」ノ價ノ騰貴ノ根本的原因ガ小麥ノ價ノ騰貴ニ在ルコトハ明カデアル。

（二）次ニ其他ノ食料品ノ價ノ高低ハ物品ニヨリテ不同ガアル、其ノ一般的傾向ハ『指數』ニヨリテ示スノガ便利デアル。

商務局ガ倫敦ニ於ケル二十三種ノ重要食料品ニ就キ一八九五年以來ノ小賣相場ノ指數ヲ計算シタモノガアル。固ヨリ此等二十三種ノ物品ガ家計上同ジ地位ヲ占メテ居ル譯デハナイ。「パン」ト肉、牛乳ト茶、夫レ〳〵家計上ニ於ケル重要ノ度合ニ差異ガアル。故ニ其ノ重要ノ度合ニ依テ等差ヲ附ケ、各々一定ノ係數ヲ乘ジテ指數ガ算出シテアル。乃チ一九〇〇年ヲ一〇〇トスレバロンドンニ於ケル食料品ノ小賣相場ハ次ノ如ク變動シタ。

（第二表）

一八九五	九三・二	一九〇一	一〇一・九
一八九六	九二・〇	一九〇二	一〇一・六
一八九七	九六・二	一九〇三	一〇三・二
一八九八	一〇〇・八	一九〇四	一〇四・三
一八九九	九六・四	一九〇五	一〇三・七
一九〇〇	一〇〇・〇	一九〇六	一〇三・二

一九〇七……一〇五・八　一九〇九……一〇八・二
一九〇八……一〇八・四　〔一九一〇……一〇九・九〕

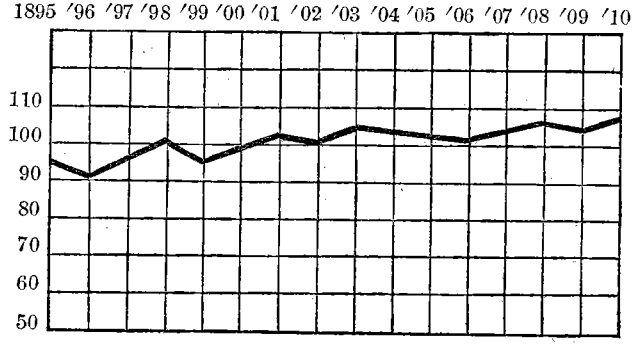
卽チ一九〇〇年ニ比スレバ一九〇八―九年ニ於テ八%〔一九一〇年ニハ凡ソ一〇%〕騰貴シテ居ル。更ニ一九〇〇年ノ價ハ一八九六年ノ價ニ對シ同ジク八%ノ騰貴デアル。假ニ一八九六年ヲ一〇〇ト立テレバ一九〇九年ノ指數ハ一一七〔一九一〇年ハ凡ソ一二〇〕ヲ示スコトニナル。

右ノ表ヲ罫線デ現ハシテ見レバ一般ノ趨勢ハ一層明カニナツテ來ル。（第一圖）

卽チ一八九六年以來ロンドンニ於ケル食料品ノ小賣相場ハ秩序的ニ次第ニ上昇シテ來タ。ソシテ此關係ハ全國ニ就テ見テモ多分同ジデアラウ。

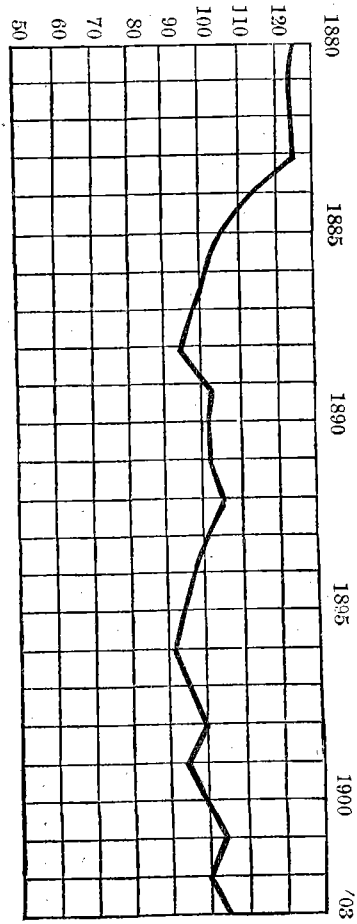
（三）サテ食料品ハ勞働者ノ家計ニ於テ支出ノ三分ノ二ヲ占メテ居ルカラ最重要ノ費目ト云ハナケレバナラヌ。所デ此ノ食料品ノ價ノ騰貴ハ他ノ費目（例ヘバ家屋費、衣服費、燃料費等）ノ支出

第一圖



減少ニ依テ償ハレルコトアリト考ヘラレナイ譯デハナイ。之ニ關シテ最近六年間ニ統計ノ徵スベキモノガナイガ、一九〇六年ニ商務局ハ一八八〇年ヨリ一九〇三年マデ英國ノ凡テノ大都會ニ於ケル調査ノ結果ヲ公ニシタ。其ノ場合ニ支出ノ十二分ノ七ハ食料品、十二分ノ二ハ衣服、十二分ノ二ハ住家、十二分ノ一ハ燃料及點燈ノ爲ニ費スモノトシテ計算ヲ立テ、居ルガ、其ノ結果ハ卽チ左ノ通リ

第二圖



之ニ據テ一八九五年カラ一九〇三年マデノ間ニ、精細ニ比較スレバ多少ノ違イハアルガ、大體ニ於テ一般生活費ノ增加ハ、食料品ノ騰貴ト同一ノ傾向ヲ示スコトヲ知ルコトガ出來ルノデアル。今一九〇三年以後ニ於テモ其ノ傾向ハ同樣デアツテ、食料品ノ價ノ騰貴ガ他ノ費目ノ減少ニ依テ償ルヤウナ事ハナカツタト考フベキ理由ガアル。

(四)之ト同ジ傾向ハ他ノ國ニモアル。例ヘバ獨逸ノ統計家カルヴアニ從ヘバ、一八九五年ヨリ一九〇八年マデニ獨逸ニ於ケル生活費ノ騰貴ハ凡ソ二十七%ニ達シテ居ル。又商務局ノ見積デハ一八九六年ヨリ一九〇七年マデニ食料品ノミノ價ハ二十二%騰貴シタ。同局ハニユーヨークニ於ケル食料品ノ價ノ騰貴ハ更ニ之ヨリモ大ナリトシテ居ル。或ハ又カナダノ勞働省ノ見積ニ據レバ、カナダノ勞働者ノ生計費ハ一八九七年ヨリ一九〇七年マデニ凡ソ三十乃至三十五%增加シタ。

此等ノ數ヲ比較シテ各國ノ商業政策ニ關シテ何等カノ斷案ヲ下スコトハ早計デアル。乍併、其ノ原因ノ何タルヲ問ハズ、兎ニ角物價騰貴ノ主タル原因ガ各國ニ共通ニ存シテヲルト云フコトヲ知ルニハ充分デアル。

(五)吾人ハ物價騰貴ノ現象ヲ一層明瞭ニスル爲メニ、勞働者ノ生活費ノ增加ガ其ノ日需品ニ對スル小賣相場騰貴ノ影響ヲ受ケテ居ルト共ニ、其ノ果シテ一般ニ卸賣相場ノ騰貴ニ伴フ現象ナルヤ否ヤヲ見ナケレバナラヌ。勿論一般物價ノ變動ヲ正確ナル統計ヲ以テ示スコトハ非常ニ困難ナ事業デアツテ如何ナル方法ガ此ノ目的ヲ達スルニ最モ適當デアルカニ就テモ、專門家ノ間ニ未ダ定說ガナイノデアル。重要物品ノミヲ採ツテ是ガ統計的調査ヲ行ハナケレバナラヌ、ト云フコトハ明カナコトデアルガ、然ラバ如何ナル種類、如何ナル數量ノ商品ニ就テ其ノ相場ヲ見ルベキカヾ先ヅ起ル問題デアル。茲ニハ此ノ問題ヲ解決スルノ要ハナイ、英國ニ於ケル物價指數ノ有名ナモノヲ三通リ擧ゲテ其ノ計算ノ方法ガ各々違ツテ居ルニ拘ハラズ、大體上同樣ノ結果ヲ示スコトヲ說明スルヲ以テ足レリトスルノデアル。

先ヅ**第一**ニ「エコノミスト」ノ指數—之ハ既ニ過去數十年ニ涉リテ、年々公ニセラレテヲル。

其ノ指數ハ二十二種ノ重要商品ノ卸賣相場ニ基キ、一八四五—一八五〇年ノ六年間ノ各商品ノ平均相場ヲ一〇〇ト立テタモノデアル、從テ標準時期ニ於ケル基本指數ハ總計二二〇〇デアルカラ、各年ノ合計指數ヲ夫レ〳〵二十二除スレバ次ノ表ガ出來ル。

（第三表）

年次	總指數	平均
一八四五—五〇	二二〇〇	一〇〇
一八九〇　一月一日	二二三六	一〇一
一八九一　同	二二二四	一〇一
一八九二　同	二一三三	九七
一八九三　同	二一二〇	九六
一八九四　同	二〇八二	九四
一八九五　同	一九二三	八七
一八九六　同	一九九九	九〇
一八九七　同	一九五〇	八九
一八九八　同	一八九〇	八六
一八九九　同	一九一八	八七
一九〇〇　同	二一四五	九七
一九〇一　同	二一二六	九六
一九〇二　同	一九四八	八八
一九〇三　同	二〇〇三	九一
一九〇四　同	二一九七	九九
一九〇五　同	二一三六	九七
一九〇六　同	二三四二	一〇六
一九〇七　同	二四九九	一一三
一九〇八　同	二三一〇	一〇五
一九〇九　同	二一九七	九九
一九一〇　同	二三九〇	一〇八
一九一一　同	二五一三	一一四

第二ニサウアーベック(Sauerbeck)氏ノ指數—之ハ時々 Jaurnal of Royal Statistical Society. ニ掲ゲラレル。四十五種ノ重要商品ヲ擧ゲ、一八六八—一八七七ノ平均相場ヲ一〇〇ト立テタモノ。卽チ左ノ通リ

（第四表）

年次	指數	年次	指數
一八六八—七七	一〇〇	一八九一	七二
一八九〇	七二	一八九二	六八

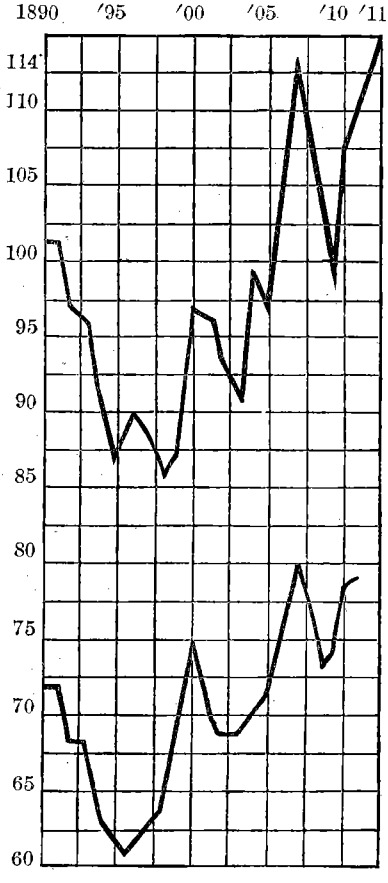
一八九三……六八　一九〇一……七〇
一八九四……六三　一九〇二……六九
一八九五……六二　一九〇三……六九
一八九六……六一　一九〇四……七〇
一八九七……六二　一九〇五……七二
一八九八……六四　一九〇六……七七
一八九九……六八　一九〇七……八〇
一九〇〇……七五　一九〇八……七三
一九〇九……七〇　〔一九一〇……七八〕

（註）一九一〇年ノ指數ハ推定數ナリ。

以上ノ二表ヲ比較スレバ一般的傾向ヲ知ルコトガ出來ル。之ヲ明カニスル爲メニ、マタ罫線ニシテ見ル。第三圖

併シ、「エコノミスト」ノ指數ガ年々一月一日ノ相場ヲ採ツテ居ルニ對シテ、サウアーベック

第三圖



ノ指數ハ毎年ノ平均ヲ採ツテ居ルシ、其上指數ヲ一〇〇ト立テタ年次モ違ツテ居ルカラ、兩者ヲ精密ニ比較スルコトハ出來ヌノデアルガ、今ソレヲ換算シテ比較シテ見ル程ノ必要ハナイ、兩者別々ニ參考ノ資ニ供スルニ十分デアル。而シテ此兩者ノ吾人ニ敎フル所ハ下ノ通リデアル

（一）一八九〇年代ノ後半ニ物價ハ一般ニ低下シテ居ツタ。但シ其最低ノ年次ヲ一八九六年トシ他ハ一八九八年トシテ居ル。

（二）時々ノ反動ハ免レナイガ、一八九九年以來物價ハ概シテ上進シツヽアル。其ノ最高ノ年次ハ一九一〇年マデニ於テハ何レノ表ニ據ルモ一九〇七年デアツタ。

此ノ兩者共ニ長年月ニ對シテ貴重ナル材料デハアルガ、統計ノ技術ニ於テ完全無缺ノモノト云フコトハ出來ヌ。然ルニ一八七一年以後ノ時期ニ就テハ一九〇三年以來

第三、商務局ノ計算ニ係リ年々"Labour Gazette"ニ公ニセラル、指數ガアル。コレハサウアーベックト全然同種ノ商品デハナイガ、兎ニ角、同ジ數ノ商品ヲ採ツテ居ル。而シテ商品ノ相場ハ「エコノミスト」、サウアーベック、共ニ市價ニ據テ居ルニ對シテ、商務局ノ指數ハ主トシテ輸出入價格ニ據テ居ル。併シ乍ラ其ノ間ノ最モ重要ナル相違ハ次ノ點ニ存スル。卽チ、前ノ二者ハ各種商品ノ間ニ輕重ノ比較ヲ取ツテ居ナイノデアルガ、商務局ノ指數ハ各種商品ノ國民消費上ニ於ケル重要ノ度ヲ仔細ニ比較シテ計算ガ立テ、在ル。ツマリ曩ニ揭ゲタ食料品ノ小賣相場ノ變動ニ關スル指數ト同ジ方針ヲ採ルモノデ、唯、一ハ各品ノ勞働者ノ家計ニ於ケル輕重ヲ考ヘ、他ハ國民全體ノ家計ニ於ケル輕重ヲ計ツテ居ルト云フ點ニ於テ差異ガアルノミデアル。而シテ、兩者共ニ一九〇〇年ノ指數ヲ一〇〇ト立テ、居ル。

今商務局調査ニ係ル卸賣相場ノ指數ノ一八九〇年以來ノ分ヲ掲ゲテ見レバ次ノ通リデアル。

（一九〇〇年＝一〇〇）

（第五表）

年次	指數	年次	指數
一八九〇	一〇四・〇	一九〇一	九六・九
一八九一	一〇七・四	一九〇二	九六・五
一八九二	一〇一・八	一九〇三	九六・九
一八九三	一〇〇・〇	一九〇四	九八・三
一八九四	九四・二	一九〇五	九七・六
一八九五	九一・〇	一九〇六	一〇〇・五
一八九六	八八・二	一九〇七	一〇五・七
一八九七	九〇・一	一九〇八	一〇二・八
一八九八	九三・二	一九〇九	一〇四・〇
一八九九	九二・三	（一九一〇	一〇八・八）
一九〇〇	一〇〇・〇		

而シテ一八七〇年以來ノ趨勢ハ次ノ罫線ニ依テ示ス通リデアル。

第四圖

此場合ニモ統計技術上非難ノ餘地ガ無イデハナイ。何故ナレバ各商品ノ國民消費上ノ輕重ヲ

計ルニ一八八一年カラ一八九〇年マデノ數ニ依テ居ルガ、一八八一年以前及一八九〇年以後ノ數ハ夫レト違ッテ居ルト見ルノガ至當デアルカラデアル。從テ充分ニ正確ヲ期センガ爲ニハ、其ノ『輕重』ヲ毎年調ベナケレバナラヌ。併シ僅カ四十年間ノ比較ヲ取ルニ妨ゲトナル程大キナ消費狀態ノ變化ハ先ヅ起ラヌモノト見テ差支ガナイカラ、前揭ノ統計ハ吾々ガ利用シ得ル最モ精密ナモノト云ハネバナラヌ。サテ、右ノ表ヲ仔細ニ點檢スルト、商務局ノ採ッタ輕重比較法ノ示ス結果ハ次ノ通デアル。

（一）物價ノ最モ低下シタ時ハ一八九六年デアッタ。

（二）一八九六年以來物價騰貴ノ傾向ガアル、其騰貴ノ率ハ一九〇九年マデニ於テ一八％〔一九一〇年マデニ二三％〕デアル。而シテ其上進ノ速度ハ「エコノミスー」ヤサウアーベックノ公ニスルモノヨリモ遙ニ秩序的デアル。又

卸賣相場ハロンドンニ於ケル食料品小賣相場（第一圖）ト凡ソ同ジ速度デ上騰シタ。

（六）卸賣相場ガ食料品小賣相場ト同ジ傾向ヲ以テ騰貴シタコト他ノ歐米諸國ニモ共通ノ現象デアル。國ニ依テハ其騰貴ノ速度ノ英國ニ於ケルヨリモ遙ニ大ナルモノガアル。例ヘバ "Bradstreet's" ノ指數ニ據レバ英國ト同ジク米國ニ於テモ亦物價最低ノ時ハ一八九六年デアッタガ、ソレ以來一九〇九年マデニ約四十七％騰貴シテ居ル。ソレカラ一九〇八年及ビ一九〇九年ノ物價ガ一九〇七年ヨリ幾ラカ低カッタコトモ亦英國ノ通リデアル、最近公ニセラレタ United States Bureau of Labour ノ報告ハ一八九〇—九九年ノ平均物價（無論一八九六年ヨリモ高イ）ヲ基本ニ立テ、一九〇七年マデニ二十九％、一九〇九年マデニ二十六％ノ騰貴ヲ見タコトヲ示シテ居ル。最後ニカナダノ "Department of Labour" ノ計算ニ據レバ、一九〇九年マデニ同地ノ物價ハ一八九〇

一九九年ノ平均ニ比スレバ四十%、一八九六年ニ比スレバ二十六%騰貴シタ。（第一節終）